

学年	教科	科目	教科書名	副教材名
高3 特進	理科	生物特講	高等学校生物基礎・ 高等学校生物 (第一学習社)	リードα 生物基礎+生物(数研出版) 2023 マーク式総合問題集 生物(河合出版) 2023 マーク式総合問題集 生物基礎(河合出版)

1. 授業のねらい

受験に対応できる知識を身につける。生物的知識や概念・思考方法を用いて、各項目の問題演習を重点的にを行い、志望校合格に向け実力養成を図る。

2. 授業のすすめ方

- ① 1学期は主に基礎的な知識の確実な習得に重点を置き、2学期以降は実験・考察・計算問題を中心に取り扱う。
- ② 生物基礎・生物の総復習を、演習プリントを用いて行う。できるだけ多種の問題を解き、多くの問題形式に慣れる。また、その知識や概念について詳しく復習する。
- ③ 家庭学習(予習)を行い、あらかじめ自分の弱点を意識した状態で授業を受け、疑問点等はその時間内に必ず解消し、理解するよう努める。
- ④ 各単元の必須重要問題についてはプリント配布や小テストを実施。実力養成を図ると同時に各自、学習内容の理解度を把握する。
- ⑤ 授業で取り組んだ内容について、基礎問題だけでなく応用問題にも挑戦し、家庭学習では復習に努める。

3. 学習上の留意点

- ① 常に入試を意識して問題演習にあたる。多種多様な問題に挑戦し、内容理解・計算力・考え方や解法を身につける。
- ② 家庭学習の量を増やすこと。予習課題をきちんと行い、授業に備えること。十分な家庭学習時間を確保し、演習を行うこととする。
- ③ 授業の進行とは別に自分で勉強計画を立て、解ける問題から解答する。特に、自分の弱点と思われる分野の問題については夏季休暇前までに質問して解決することが望ましい。
- ④ 問題集の問題、志望校の過去問題などを繰り返し解答し、実力養成を図ること。

4. 副教材・参考文献

- ① スクエア最新図説生物(第一学習社)を活用し、わからない内容がある場合には該当箇所を調べ、知識を身につけるようにする。写真や図をよく見て知識を深める。
- ② 教科書の内容を復習し、図説を辞書や参考書として利用し、問題集の問題、志望校の過去問題が解けるようにしておくこと。
- ③ 問題集の解答確認の際には解説からも知識を深め、プリント演習についても図録を活用する習慣をつける。

5. 評価の視点・テスト・課題等

定期考査による学習の到達度(100点×3回)と平常点(提出物・授業態度の取組み等)で評価する。

6. 定期考査

- ① 定期考査は各回100点満点の問題で、1学期中間・期末、2学期期末の3回実施する。
- ② 定期考査は、試験範囲に関する問題を幅広く出題する。

7. 授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	4	知識の確認と定着 ①細胞と分子 ②タンパク質と酵素 ③同化 ④異化 ⑤DNA-1 ⑥DNA-2	①授業プリントの提出。 取り組みと内容の評価。 ②授業中の取り組み（確認テストの点数、板書・問題演習・解答解説・発言）の評価。 ③宿題、課題の評価。 その他 以上3項目を主として 1学期平常点20点満 点に換算し、評価する。	・重要語句の確認と定着を図る。 授業プリント・一問一答のプリント、基礎的な演習問題を活用し、実践に役立つ知識を身につける。
	5	⑦バイオテクノロジー 【1学期中間考査】 ⑧生殖 ⑨発生 ⑩発生のしくみ ⑪植物の発生		
	6	⑫植物の環境応答 ⑬生物の体内環境-1 ⑭生物の体内環境-2 ⑮バイオーム ⑯生態系とその保全 【1学期期末考査】		
	7			
二 学 期	9	⑰動物の反応と行動 ⑱個体群と生物群集 ⑲生態系 ⑳生物の進化 ㉑生物の系統	①授業プリントの提出。 取り組みと内容の評価。 ②授業中の取り組み（確認テストの点数、板書・問題演習・解答解説・発言）の評価。 ③宿題、課題の評価。 その他 以上3項目を主として 1学期平常点20点満 点に換算し、評価する。	・重要語句の確認と定着を図る。 授業プリント・一問一答のプリント、基礎的な演習問題を活用し、実践に役立つ知識を身につける。 ・共通テストの発展問題に相当するような、実験考察型の問題を取り扱い、図表の読み取りかた、選択肢の絞り込みのポイントを押さえる。 ・入試問題の過去問を用い、実践に役立つ知識を身につける。
	10	共通テスト対策演習		
	11			
	12	【2学期期末考査】		
三 学 期	1 2 3	【特別授業】		